

コードネームを用いた編曲と「弾き歌い」の試み

林 洋子

(佐賀短期大学 幼児保育学科)

(平成20年 2 月29日受理)

Arrangement of child songs that uses chord names and the trial of "Singing with the piano"

Yoko HAYASHI

(*Saga Junior College*)

(Accepted February 29, 2008)

Abstract

For child cares, it is one of the necessary conditions to be made good at “singing with the piano” of the child song. This study clarifies the effect by arranging child songs and using chord names in the “expression” class. This process made the students the general ability to understand and analyze the music raise. In addition, students can get familiar with “the recital with the piano” .

Key words : chord name コードネーム
singing with the piano 弾き歌い
arrangement 編曲

I 緒 言

保育者にとって幼児曲の「弾き歌い」の技術を高め応用力を身に付けることは必須条件である。

保育現場に於ける就職試験や全国の私立幼稚園・保育園等の施設団体で実施されている登録試験においても実技試験にはピアノ実技と「弾き歌い」が含まれている場合が多い。さらに保育現場では簡易伴奏を用いた「弾き歌い」が日常的に行われている現状もある。

簡易伴奏を用いた「弾き歌い」は技術的に楽譜どおり弾けない学生のために本格的伴奏へのステップとして活用される場合が多いが佐賀短期大学幼児保育学科では入学時ピアノの初心者が比較的多い事もあり「音楽表現」科目の中で一年次に簡易伴奏法を習得させ保育現場で使われる幼児曲に簡易伴奏をつけた「弾き歌い」を実技試験の一つに取り入れている。

この「弾き歌い」を更に充実させるため今年度（平成19年度前期）は二年次で「表現」科目の中にコードネーム用いた編曲による「弾き歌い」の実践を試みた。

授業終了後、授業に対するアンケート調査を実施すると、コードネームを用いた編曲の実践過程を通して音楽の基礎知識が広がり、ピアノや「弾き歌い」で苦勞している学生にも応用力や自信を付けさせ「表現」科目に対する好感度を上げることが出来たのでここに報告する。

II 目 的

コードネーム（三和音の四つの種類と七の和音）について理解し保育現場で使用する様々な幼児曲（アニメの曲も含む）に、このコードネームを用い、自分のピアノ技量に合わせながら編曲が出来、保育現場で自信を持って楽しく「弾き歌い」が実践出来る事を目的とした。

III 方 法

1. 対象 佐賀短期大学 幼児保育学科2年生113名
2. 時期 平成19年 前期
3. 調査の方法・・・アンケート調査を実施。

授業が7回のオムニバスの関係で、その中の4回をコードネームの三和音（長三和音・短三和音・減三和音・増三和音）と七の和音（属七の和音・減七の和音・長七の和音・短七の和音）の理解と使い方の説明・実践に当て、後の2回は選曲とミュージックラボラトリーを使用しての奏作活動とし、最後の一週は編曲した楽譜の提出と「弾き歌い」のテストとする。

選曲については、アニメソングやテレビに出てくる「お母さんと一緒より・バナナの親子」や「ひらけポン

キッキより・ドキドキドン！一年生」「ディズニーより・小さな世界」など幼児曲の枠を広げ、学生自らが保育現場で使用したい曲を選択する。

次に授業で学習したコードネームを用い、自分のピアノ技量を考慮しつつ、その曲のイメージを壊さないコードを選択、リズムを工夫しながら編曲し指導者の助言を仰ぐ。その後、丁寧に楽譜に清書して提出し、編曲した「弾き歌い」の試験を受ける。最後にこの授業に対するアンケート調査を実施した。

IV アンケート調査の内容と回答

- ・アンケート回収率106名（94%）
男性（17名）女性（89名）
（2年次学生在籍者数113名中欠席者7名）
- ・パーセントの小数以下は四捨五入

1. 楽譜を編曲し、清書して提出する過程に於ける発見について（複数回答可）

- ① 伴奏譜は旋律のリズムと伴奏のリズムを見比べ、リズムの長さを計算し、音符を書く位置に注意をして書かねばならない事に気づいた（84名・79%）
- ② 細かいことに気づきが少なく、おおざっぱな自分の性格に気がついた（72名・68%）
- ③ 曲の成りたち、休符、音符の長さ等について深く考えるようになった（63名・59%）
- ④ 付点音符の点のつける場所の決まりについて知ることが出来た（45名・42%）
- ⑤ 音符の線の引き方にも決まりがある事について知ることが出来た（40名・38%）
- ⑥ その他
 - ・音符一つ違っても曲の雰囲気が変わることに気づいた。
 - ・マンガの曲はテンポが速くて難しい曲が多いことに気づいた。

2. アニメーション以外の曲を選択した人は、その曲名を書いてください。

小さな世界（20名） 素敵なお父さん（4名） お稽古の歌（4名） 雨降りくまの子（3名） ぼくのお父さん（2名） ドキドキドン一年生（2名） 虹の向こうにどんな色が好き 大きな古時計
（全体の36%がアニメーション以外の曲を選択した）

3. 今回、幼児曲を選曲するにあたり感じた（考えた）こと。

- ① 自分のピアノ技術を考え弾けそうな曲を選択した（39名・37%）

- ② 確実に弾くために簡単でうたいやすい曲を選んだ (22名・21%)
- ③ 子どもが大好きで、自分も大好きな曲を選んだ (14名・13%)
- ④ 保育現場や、実習で活かせる曲を選んだ。(8名・8%)
- ⑤ 明るい曲でのりがよく楽しい曲を選択した(8名・8%)
- ⑥ アニメの曲が弾けるようになりたいので選んだ (7名・7%)
- ⑦ 実習で聞いた曲を選んだ(2名・2%)
- ⑧ 難しい曲に挑戦した。

4. 楽譜を提出し、「弾き歌い」の試験を受ける前に先生に指導を受けましたか？

- ・はい (86名・81%)
- ・いいえ (11名・10%)

5. 試験を受けた後の感想

- ① 試験になると緊張してうまく弾けなかった (40名・38%)
- ② 今まで絶対に弾けないと思っていた曲が伴奏を変える事で弾けるようになり、とてもうれしく思った (25名・24%)
- ③ 弾いているうちにだんだん速くなった。もっと練習の必要があった (4名・4%)
- ④ 子どもが歌える音域(移調)等の工夫に気づかされた。
- ⑤ コードの理解が出来たので楽譜が更に理解しやすくなり自分で簡単に伴奏付けができ、楽譜の書き方も学べて良かった (10名・9%)
- ⑥ 実習で役に立つ曲がどんどん増えて良かった (3名・3%)
- ⑦ 何回も書き直したので練習する時間が足りなかった。
- ⑧ 楽譜を書くことで今まで気づかなかった所を沢山気づかされ考える事を経験した。

6. 今後、この曲を保育現場で役に立てることが出来るうですか。

- ・出来る (72名・68%)
- ・何とか出来る (33名・31%)
- ・出来ない (2名・2%)

7. その他、この授業に対する感想など(自由記述)

- ① 実感したこと。(難しい曲でもコードを付けやさしくアレンジして弾くことが出来る。コードの使い方で曲が明るくなったり暗くなったりする。雰囲気

を壊さないで伴奏を付ける事の難しさ。1年次に比べると音符の読み書きが出来るようになった。子どもが好きな曲を考えることが大切で難しい。練習の必要性を実感した。2年生でピアノが少し弾けるようになった事を実感した)(23名・22%)

- ② 役に立ったこと。(短大に入学してピアノを始めた私にとって簡易伴奏法やコードネームを習ったことは即戦力に繋がった。実習時や就職して役立てることが出来る。覚えたコードでいろんな曲に挑戦したいという目標が出来た。)(28名・26%)

- ③ 楽しくなったこと。(自分の好きなアニメの曲をやさしく編曲して弾けた。コードネームを使用してすぐ弾けた。好きな曲だったのでやる気がでた。現場で使えるものばかりで嬉しかった。楽しかったので音楽の授業が好きになった。丁寧に分かりやすく指導してもらった。コードネームを学んだことでバリエーションが増えた。自分で曲を作る楽しさを教えてもらえた。)(35名・33%)

- ④ コードネームはもっと勉強したい (3名・3%)
- ⑤ この授業のお陰でどんな曲でも弾けるのだという自信が付いた (13名・12%)
- ⑥ 親切に指導してもらったが練習不足でピアノが思うように弾けなかった。
- ⑦ ピアノがダメなのでもっと努力していきたい。
- ⑧ もっと積極的に聞いておけばよかった。

V 結果考察

ジャズやギターの記譜に用いられるコードネームの理解については「楽典」で習得したと思われる「音程」の箇所を復習させ、長調・短調の違いとその和音構成について理解させる事で、学生達は一年次に簡易伴奏法を経験していたせいか意欲的に取り組む姿勢が見られた。又音楽が好きでピアノが得意な学生は、数多くの幼児曲にコードネームを応用し楽しむ姿も見られた。

アンケートの結果によると、ピアノの苦手な学生にも旋律を眺めコードを選択し伴奏には根音を中心として少ない音(単音でも良い)で書かせることで、本格的伴奏よりはるかに易しくなり、音符を書く事や「弾き歌い」をすることが楽になったことが分かる。

授業に対する感想の中には学生自ら、ピアノの練習不足についての反省や、授業中の取り組みに対する反省も2%みられた。アンケートの7の⑦⑧がそれに当る。

同じ7の①②③の前向きな意見だけでも合計81%であり、質問6の「今後は保育現場で役に立てることが出来るか」の質問に対し、出来る方向で回答したのが99%であったという事はこの「コードネームを用いた編曲の試み」の目的はある程度達成出来たと考える。

VI 終わりに

短大に入学してくる学生の音楽能力は様々であるが、特に入学して初めてピアノを始める学生に2年間で保育現場において使える音楽理論やピアノ技術をどのような方法で身につけさせ「弾き歌い」等が出来るようにするかが音楽教育担当者の課題である。

今回試みたこのコードネームによる伴奏法は、ピアノの経験も少なく調号の理解もおぼつかない学生に最短距離で「弾き歌い」を可能にする方法の一つであると言えるだろう。(しかしそこには楽典の基礎的理解は欠かせない)

幼児の人格形成や教育に携わる幼児保育学科の学生達は常に学生自ら姿勢を正し、資質向上が欠かせないが、

アンケートの内容1、②(気づき)の所で見えてくるように編曲の作業を通して、細やかな気づき等、性格に対する自己反省が68%あった事は今後、保育士を目指す学生の成長に繋げる事が出来るのではないだろうか。又編曲する過程や、楽譜を書き上げる作業は、楽典の基礎能力、集中力、細かい注意力と正確さ、忍耐力等を必要とするので、あえて学生にこの作業をさせる事で筆者自身が学生の思考力、創造力、感受性などの幅広い人間性をも含めて垣間見ることが出来たのは偶然の産物であった。

平成20年度は更に楽しい授業の中で確実に力を付ける方法を摸索して行きたい。

最後に学生が編曲した手書きの楽譜の一部を未熟ではあるが挙げておく。(楽譜1・楽譜2)

樂譜 1

樂譜 2

Pr1P7 2) の 2 - 4

C G Am7 G A7 D7 C G Am7 G C G Am7 D7 G C G C G D7 G A7 D B7 Em D7 G A7 D

おのれおのれをわけて かにきいていさのか くらえれかにわんて そんかのほ()や せ
いもいさる ことぞ あつてころそえろ けからきめいしくんぞ けけえええ